

第1回災害対応空間の設営・運営に関する研究会を開催しました（2020/12/16）

テーマ：避難所運営、仮設住宅、恒久住宅
場所：東北大学災害科学国際研究所（宮城県仙台市）

地震や台風など巨大なハザードが我々の住む街に押し寄せた後、避難所が開設されることは少なくありません。しかし、プライバシーの確保、食事やトイレの問題、避難所運営に関する経験の少なさなど、円滑な避難所運営のためには数々の課題が残されています。また緊急対応期後におとすれる復旧・復興の段階においても、仮設住宅や恒久住宅建設に関する課題もたくさんあります。こうした災害対応空間の設営・運営に関する課題を整理し、改善していくことを目的として、地域・都市再生研究部門 国際防災戦略研究分野の村尾修教授と坂茂特任教授（客員）（慶應大学環境情報学部教授）が中心となり、12月16日（水）に「第1回災害対応空間の設営・運営に関する研究会」が開催されました。

研究会では、避難所運営、災害医療、防災教育、防災法制度、応急仮設住宅の計画、復興事業など本テーマに必要とされる様々な分野の専門家（以下参照）が集まり、それぞれの経験と課題について話題提供し、情報交換を行いました。また主催した村尾教授からは、被災者のための災害後の住環境、仮設住宅から恒久住宅への移行、避難所空間の仕様とレイアウト、避難所の円滑な運営システム、各種事例の整理、模範とされるイタリアの災害対応システム、防災研修を通じた知識と経験の共有など、論点が整理され、議論が展開されました。今後も引き続き、研究会を行なっていく予定です。

（午前の部）

坂茂：Voluntary Architects' Network の活動
定池祐季：厚真町支援の現場から -避難所から災害公営住宅まで-
佐々木宏之：災害派遣医療チームの立場からみた避難所の課題（あれこれ）
杉安和也：HUG を用いた研修+避難行動とインドネシアの避難所実態
丸谷浩明：避難所からその後の住宅供給に関する政府との論点（？）
島田明夫：仮設住宅から恒久住宅への円滑な移行

（午後の部）

佐藤健：避難所と学校 -仙台市の「がんばる避難施設」とその整備状況-
岩田司：地域型応急仮設住宅～地域型復興住宅へ
平野勝也：石巻・女川の復興事業における実務的な連携と実践
村尾修：論点の整理
総合討論



坂茂教授の発表と総合討論の風景